

初めての英語発音指導

— 英語の歌を歌おう —

An Introduction to English Pronunciation: Let's Sing a Song in English!

李 春 喜
Haruki Lee

One of the reasons why Japanese people are poor at speaking English is that they are unaware of the difference between the two ways of breathing: abdominal breathing and costal breathing. When each Japanese letter is pronounced, it almost always comes with a vowel sound in which case the vocal chords vibrate. On the other hand, when the English language is pronounced, a lot of consonant sounds are used on their own, i.e. they do not come with vowel sounds in which case the vocal chords do not vibrate.

Because Japanese people vibrate their vocal chords when they speak their own language, abdominal breathing is not necessarily used; in other words, when Japanese people speak Japanese, their speaking does not require them to inhale a lot of air and store it inside their abdomen or exhale the air without vibrating their vocal chords.

However, since native speakers of English use a lot of consonant sounds, they frequently use abdominal breathing, which requires them to store a lot of air inside their abdomen and exhale it with a gust of air without vibrating their vocal chords.

Consequently, while reading English aloud, Japanese people inhale and exhale air more frequently than the native speakers of English because the former do not frequently use abdominal breathing to utter sounds; instead, they vibrate their vocal chords. This difference in the ways of breathing makes it difficult for Japanese people to utter English sounds.

Since Japanese people also use abdominal breathing while doing physical exercise, singing a song, performing a play on the stage, etc., singing English songs in English is a good way for Japanese people to learn how native speakers of English breathe, which leads to good pronunciation of English language for Japanese people.

キーワード

発音 (pronunciation)、腹式呼吸 (abdominal breathing)、胸式呼吸 (costal breathing)、英語の歌 (English songs)

I. はじめに

英語と日本語とでは、まず、呼吸の仕方が違います。60語くらいの英文を声に出して読んでみると分かりますが、日本人が音読してみると、読み終わるまでの間に多くの人が7回から8回息を吸います。それに対して、英語母語話者が同じ量の英文を音読しても、2回程度しか息を吸いません（この辺りの詳しいことはウェブサイト「Scott Perry 発音アカデミー」<https://spacademy.usefedora.com/> [一部有料] を参照してください)。つまり、日本語母語話者と英語母語話者とは呼吸の仕方がそもそも違うのです。

次に、日本語は、ほぼすべての音に母音がくっつきますから、日本語を話すときは声帯が震えます。試してみると分かりますが、喉仏の辺りに手をつけて日本語を声に出してみてください。声が発せられている間ずっと声帯が震えているのが感じられるはずです。つまり、日本語の音には母音がくっついているため有声音となり声帯が震えるのです。有声音は声帯を震わせて発する音で、わずかな量の息の出し入れで済む胸式呼吸で十分なのです。つまり、腹式呼吸を使ってたくさんの息を吸いこみ、それを勢いよく吐き出さなくても日本語の音は出せるということです。その結果、英語母語話者に比べて、日本語母語話者は頻繁に息継ぎをすることになります。一方、英語は子音だけを出す頻度が高いため、つまり、声帯を震わせて発生する頻度が日本語より低いため、英語母語話者は頻繁に腹式呼吸をしています。

腹式呼吸とは、息を吸うと胸ではなくてお腹が膨らみ、お腹の筋肉で息を吐き出す呼吸の仕方です。日本語母語話者でも、日頃からよく歌を歌う人、大声を出してスポーツをする人、舞台でお芝居をするような人たちは、自然と腹式呼吸が身についています。つまり、英文を音読するとき、日本語母語話者が頻繁に息を吸うのは、音読している言語が英語であるにもかかわらず、日本語を話しているときと同じように声帯を震わせて母音を多用して発声し、胸式呼吸をしているからです。そのあたりの事情を、スコット・ペリー氏は、朝日出版社の月刊誌『CNN English Express』2016年2月号で次のように述べています。

The third point is breathing. American people breathe with a different rhythmic frequency than Japanese speakers do. American English is a deep-breathing, long-stretching style of speech, while Japanese English is a shallow-breathing, quick choppy style. (106頁)

ペリー氏は、「アメリカ人は深く息を吸い込み、長く息を吐き出す呼吸の仕方をするのに対して、日本人が英語を話すときは、息が浅く、呼吸が途切れ途切れになる」と指摘しています。

Ⅱ. 英語と日本語の音素

ここで簡単に英語と日本語の音素について確認しておきます。

本稿は、英語の音声学や音韻論の専門的な学術論文ではなく、あくまでも、教育機関における教室という空間で、受講生を相手に英語を教えている現場の経験をもとにした提案です。したがって、母音や子音の正確な音素の数については学術的に厳密なものではありません。また、英語や日本語の音声の表記方法も、それぞれの専門分野で使用されているものとは違うことをお断りしておきます。

鳥飼玖美子氏の『本物の英語力』（講談社現代新書）の26頁から27頁に、英語と日本語の母音と子音の音素の数について記述があります。引用してみます。

第一に母音です。日本語は「あいうえお」の5音素なのに、英語は20音素もあります（26頁）。

（中略）

次に子音です。日本語では16音素なのに、英語は24音素あり、摩擦音（/f/ /v/ など）が多くあります。それに加え、英語の子音は日本語と違って独立独歩です。日本語では子音の後に原則として母音がつきますが、英語では母音などを後につけずに子音だけでバシッと終わります（27頁）。

ここで気をつけていただきたいのは、「母音も英語の方が多くはないか。それなら、英語母語話者も複式呼吸をせず、声帯を震わせるだけで済むのではないのか」という疑問です。確かに、音素の数としては英語の方が母音の種類は多いです。しかし問題は、鳥飼氏が「英語の子音は日本語と違って独立独歩です。日本語では子音の後に原則として母音がつきますが、英語では母音などを後につけずに子音だけでバシッと終わります」と的確に指摘されているように、英語は、子音を子音だけで発生する頻度がとても高いということです。たとえば、“clear”という単語にしても、これを日本語母語話者が発音すると、どうしても「クリアー」([kulia:])となり、最初の[k]の音を[ku]と発音してしまいます。結果、「ク」「リ」「ア」のすべての音が有声音になり声帯が震えます。しかし、英語の“clear”([kliə])の[k]は子音だけの音ですから、無声音で声帯は震えません。それが、鳥飼氏が指摘される「英語の子音は日本語と違って独立独歩です」ということの意味です。そして、[s]、[t]、[k]といった英語の子音が子音だけで発音されるとき、それは日本語の「シ」「ツ」「ク」とは違って、声帯を震わせず、お腹から息を吐き出す複式呼吸を使って音を出しているのです。英語の単語が何百語も続けば、日本語母語話者は、日本語を話すときと同じように、すべての子音に母音をくっつけてしまい、胸だけで息を吸い、声帯を震わせて発音してしまうので、一回いっかきの呼吸が浅くなり何度

も息継ぎをしてしまうのです。

もう一つ例を挙げます。日本語母語話者は“mayonnaise”を「mayone:zu」(「マヨネーズ」)と発音します。しかし英語では、“mayonnaise”は [meiəneiz] であり、「ズ」は [zu] ではありません。したがって、英語母語話者の [z] は有声音ではあるけれども、子音だけで発音される音のため日本語の「ズ」ではなく、息だけを吐き出すようにして [z] と発音しなければいけません。これが英語を音読するとき、あるいは、英語を話すとき、日本語母語話者が英語母語話者より頻繁に呼吸をする理由です。

Ⅲ. 腹式呼吸

筆者は、日本語母語話者が英語を話すことを苦手とする原因の一つは、呼吸の仕方にあるのではないかと考えています。

私は、日本語母語話者に英語の授業をするとき、受講生と一緒によく英語の歌を歌います。元マイクロソフト日本法人社長の成毛眞氏は月刊誌『第三文明』の2月号「成毛式英語習得法」というエッセイの中の「歌の完コピは発音の練習に使える」という小見出しで、James Taylor の You've Got A Friend を例にとり、次のように語っています。

この [You've Got A Friend] 中に出てくる英単語は、結構発音の勉強になるんです。「friend」の「f」とその次の「r」。これは意外と発音しにくいんです。「got a」も「t」の音が落ちる。「ガラ」に近い音に聞こえるんです。これを最初から最後まで録音して聴きながら、音程も含めて元の歌と同じくらい完コピしてみてください。上達するはずですよ。

(中略)

幼稚園児でもわかるような、ポエムではない文章で、キーの低い曲が歌いやすくいいでしょう。

もちろん、成毛氏が提案しているように、英語の歌を歌うことには、英語の発音やリズムを身につけるという目的もありますが、より重要なことは、歌を歌うことによって、日本語母語話者が苦手とする複式呼吸を体感できるということです(このあたりの事情は、ウェブサイト「ワイド・ボイス」の「英語の曲を歌うと腹式呼吸になる？」の欄 <http://yd-voice.com/column/c066.html> をご覧ください)。

歌を歌うときは腹式呼吸をしないと大きな声は出ません。腹式呼吸をしながら英語の歌を歌うことをとおして、英語の発音・イントネーション・リズム、そして最も重要な、複式呼吸の感覚を体感してもらいたいと思います。

Ⅳ. 日本語と英語の音素の数

日本語版「ウィキペディア」の「音素」という見出し語の「日本語の音素」という項目を見れば、日本語の母音は「アイウエオ」の5つと「ヤユヨワ」の半母音4つを合わせて9つ。子音は、カ行、サ行、タ行、ナ行、ハ行、マ行、ラ行、ガ行、ザ行、ダ行、バ行、パ行に代表される12の音と、「チ」と「ツ」の音に代表される[t]の音を合わせて13ということになっています。それに、撥音「ン」、促音「ッ」、長音「ー」の3つの音素が加わります。逆の言い方をするとこれだけの音素しかないということです（参考までに、本稿の最後に日本語の音素を「ウィキペディア」の記述にもとづいて列挙したものを添付しておきます）。

それに対して英語の音素は、『ランダムハウス英和大辞典』第2版の「発音解説」によると、母音だけで20、子音が24もあります。音素の種類が多い母語話者（この場合は英語母語話者）が、音素の少ない外国語（この場合は日本語）を学習する方が、音素の種類が少ない母語話者（日本語母語話者）が、音素の多い外国語（英語）を学習するより容易なのは、少なくとも発音と聴き取りに関する限り、当然だと言えるのではないのでしょうか。

Ⅴ. 言語でないものを言語にすること

言うまでもないことですが、言語の発音は音です。ある音が言語になるためには、決められた特定の調音方法に従わなければなりません。その音の出し方を指導する場合、教員が実際にその音を出して学習者にその音の真似をさせることもできますが、その音の出し方を言葉で説明することもできます。スポーツや楽器の演奏のように身体が覚えなければ上手くできないものはすべて同じです。例えば、自転車に乗れない人に、自転車の乗り方を教えることを考えてみます。自転車の練習をしている人に、自分が自転車に乗って見せることもできますが、以下の例のように言葉で説明することもできます。例えば、

両手で自転車のハンドルを握って、片足をペダルに乗せ、その足にグッと力を入れてゴーツと走っていく。

と簡潔に短く説明することもできれば、

自転車をまたいでサドルにお尻を乗せ、両手で自転車のグリップを握る。片足は地面につけたままにしておき、もう片方の足を自転車のペダルにかける。そのとき、足をかける方のペダルが真上や真下にこないようにする。ペダルは、真上から40度くらい（地面から50度くらい）の位置にしておくといよい。もう片方の足は地面につけたままにしておく。地

面についている足を浮かせると同時に、ペダルにかけている方の足で一気にペダルをこぎ、自転車を前方に動かす。自転車が動き始めたら、地面に置いていた足を空いている方のペダルに乗せる。両足を使ってペダルを前方に交互に回し速度を調整する

と詳しく説明することもできます。これは意図的に極端にした例ですが、自転車の乗り方を教える場合も、言葉で説明する場合、その説明の仕方には無数のバリエーションが考えられます。

別の例を挙げます。視覚から得られる情報を言語で説明する場合です。三角形という図形は、「一直線上にない任意の三つの点を直線でつないだときにできる図形」と説明することもできれば、「コンビニで売っているおにぎりの形」と説明することもできます。前者は、三角形の定義としては正確ですが、幼稚園児に教えるときには適切でしょうか。後者は、三角形の説明としては正確ではありませんが、おそらく、幼稚園児には「ピン」とくるものがあるでしょう。これは、どちらが良いかという問題ではなく、同じことを説明する場合でも、学習者の年齢や理解力や目的に合わせて、その都度、教え方を工夫した方が良いということだと思います。

英語の発音についても同じことが言えます。英語の発音の仕方を指導する場合、教員が実際にその音を発音して聞かせてもいいでしょうし、『ランダムハウス』の「発音解説」のように権威ある辞書を利用する方が良い場合もあるでしょう。また、ここでご紹介するように、民間の団体が運営しているウェブサイトの解説を利用する方が学習者にとって理解しやすい場合もあると思います。この項では、『ランダムハウス』の発音記号を、ウェブ上で公開されている「英語の発音教室 PLS」の発音解説を引用したいと思います。句読点等は筆者が調整し、漢字・仮名の使い方はウェブ上で公開されているとおりにしてあります。便宜上、母音の数を22、子音の数を24にしています。実際の音は「英語の発音教室 PLS」のウェブサイトをご参照ください¹⁾。

【母音】

1. [ɑ] bottle fox hot stop yacht

①母音の中で、一番大きくあごが下がります。

②舌を下にさげるようにします（単に唇を開くのではなく、口の中央の空間を広げるつもりで舌を下げましょう）。

2. [æ] apple sand bag hat cat

①口角を横にひっぱります。

②その状態のまま、下にも下げて口を開きます。

③舌は前方に、下の歯の裏につくかつかないかの位置です。

④やや「エ」を言うつもりで声をだします。

3. [ʌ] cut lunch up come cup

①口もとは力を抜き、軽く口を開きます（くちびるを緩める程度で）。

②喉のあたりからまっすぐ前に声を通るようなイメージで、短くキレのあるような音（やや暗い音）を出してみましょう（口内の空間も狭いので、あまり響く音ではありません）。

4. [ə] alone about again away

①くちびるの周りは、力を抜き、あごもほとんど下げません。くちびるを軽く開く程度でOKです。

②どこにも力を入れず、のどの近くで軽く発音します。

5. [i:] key meat key peak

①口を横に引っ張るようにして、軽くひらきます（あごを下げます）。

②舌は前方に位置します。

③口内の前方で音を響かせるように、鋭い音を出します（「イー」というつもりが近いです）。

6. [i] fit window in sit hit

①やや口を横にひっぱるように、下げるように軽くひらきます。

②舌は前方に位置します。

③力はいれずに、声をだします。

7. [u:] boot group do soon food

①口をやや突き出すようにします。

②舌は前方に位置します。

③口内の前方で音を響かせるように、鋭い音を出します。

8. [u] look pull good put

①ほんの少し口をとがらせる気持ちで、軽く口をひらきます。

②舌は前方に位置します。

③力まず、力を抜くイメージで声をだします。

9. [e] bed bread elephant any test

①やや口を横に引っっぱるように、下げるように軽くひらきます。

②舌は前方に位置します。

③力まず、力を抜くイメージで声をだします。

10. [ɔ:] dog small walk call law form warm

①くちびるには力を入れず、軽く開きます（日本語の「オ」よりも、口を開いて、力を抜いてください）。

②口内の奥の方に空間を作るようにします。

※やや舌が引き気味で、下の方に位置します。

上下の奥歯の間隔を広げるように口を開くといいかも知れません。

③喉の奥から、「オー」というつもりで声を出します。途中で音が変わらないように。一定

の音を出しましょう。

11. [ai] like sight mine by kind

①あごを下げます。

②あごを戻す時に、「i」(≐イ)と軽く添えるように言います。

※(中略)下の中央を下げるつもりであごを開きましょう。

※あごを戻しながら、後半部分の「i」をやや弱めに発音します。

12. [ei] aim game say wait pay

①軽くあごを下げます。(口角を横にもひっぱる)。

②あごを戻す時に、「i」(≐イ)と軽く添えるように言います。

※(中略)下の前付近を下げるつもりであごを開きましょう。

※あごを戻しながら、後半部分の「i」を弱めに発音します。

13. [oi] coil toy boy point

①くちびるには力を入れず、軽く開きます(日本語の「オ」よりも、口を開いて、力を抜いてください)。

②口内の奥の方に空間を作るようにします。

※やや舌が引き気味になります。上下の奥歯の間隔を広げるようなつもりであごを下げる
といいかも知れません。

③喉の奥から、「オ」というつもりで声を出します。

次の音「i」に滑らかに移ります。

後半の音はやや弱く添える程度にしましょう。

14. [au] out house down

①あごを下げます(少しだけ口角を横にひっぱる)。

②あごを戻す時に、「u」(≐ウ)と軽く添えるように言います。

※(中略)舌の中央を下げるつもりであごを開きましょう。

※あごを戻しながら、後半部分の「u」を弱めに発音します。

15. [ou] coat open go know most

①あごを下げて、くちびるは軽く開きます。

少し口先をとがらせるようにして「o」(≐オ)と言います。

②あごを戻す時に、「u」(≐ウ)と軽く添えるように言います。

※(中略)舌のやや後ろを下げるつもりであごを開きましょう。

※あごを戻しながら、後半部分の「u」を弱めに発音します。

16. [a:] [a:r] car start art palm heart party

①口を少し大きめに開きます。舌は動かさないように、最初の「a」(≐ア)と言います。

②口を元に戻すと同時に、下をすばやく持ち上げます。

この時に、後半の音「:r」を出します。

※口を開くときは、舌を下に下げるようにします（口の空間を広げるつもりで舌を下げましょう）。

※舌を天井に近づけるように持ち上げて、声をこもらせるように発音します。

17. [ɔ:r] more store door

①口を軽く開きます。やや縦長にした方が言いやすいです。

舌は動かさないように、最初の音（≒オ）と言います。

②口をやや元に戻しながら、舌をすばやく持ち上げます。

この時に、後半の音「:r」を出します。

※口内の奥の方に空間を作るようにします。やや舌が引き気味になります。

上下の奥歯の間隔を広げるように口を開くといいかもしれません。

喉の奥から、「オー」というつもりで声を出します。

※舌を天井に近づけるように持ち上げて「:r」の音へ移ります。

声をこもらせるように発音します。

18. [ə:r] bird dirty urge work earth

①口は、軽く開きます（できるだけ開かない方が出しやすい。上の歯と下の歯がぶつからない程度）。

②舌（舌尖ではなく中央や付け根）を天井スレスレのところまで持ち上げます。

③こもらせるように声を出します。

19. [ə:r] after never better beggar mother

①口は、軽く開きます（できるだけ開かない方が出しやすい。上の歯と下の歯がぶつからない程度）。

②舌（舌尖ではなく中央や付け根）を天井スレスレのところまで持ち上げます。

③こもらせるように声を出します。

20. [iə:r] near tear ear here

①口を横に引っぱるようにして、軽くひらきます（あごを下げます）。

最初の「i」を言います。

②口を自然に戻すと同時に、舌をすばやく持ち上げます。

この時に、後半の音「ə:r」を出します。

※舌は前方に位置します。力はいれずに、声をだします（「i」の部分）。

※舌を天井に近づけるように持ち上げて、声をこもらせるように発音します。

21. [uə:r] poor tour

①ほんの少し口をとがらせる気持ちで、軽く口をひらきます。

②口を自然に戻すと同時に、舌をすばやく持ち上げます。

この時に、後半の音「əʊ」を出します。

※舌は前方に位置します。力はいれずに、声をだします（「u」の部分）

※舌を天井に近づけるように持ち上げて、声をこもらせるように発音します。

22. [ɛəʊ] care bear pair

①やや口を横にひっぱるように軽くひらきます（あごを下げます）。

②口を自然に戻すとともに、舌をすばやく持ち上げます。

この時に、後半の音「əʊ」を出します。

※舌は前方に位置します。くちびるには力はいれずに、声をだします（「ɛ」の部分）。

※舌を天井に近づけるように持ち上げて、声をこもらせるように発音します。

【子音】

1. [s] sick smooth see city send

①上下の歯は、軽くとじます（唇は、〈中略〉軽くあけますが力はいれずに）。

②舌尖を、歯の裏ぎりぎりまで、近づけます。

③舌尖と上歯の間から、息を出します。

2. [z] zoo easy cause size

①口の動き・形・息の出し方は、「s」と同じです。

②「s」の音を作った、「舌尖と上歯の間」に集中してください。

③「s」は、「息」だけでしたが、今度はプラス「声」をだします。②の所をブルブルと震動させるつもりで、「ぶー」という感覚で声をだします。

3 [ʃ] shop she ship sure

①歯は軽くとじます。

②舌の前方の表面が天井に接近します。

③くちびるに力をいれて、〈中略〉前に突き出します（と強く出ます）。

④息をしっかりと出します（舌の表面と天井のすきまの広い範囲で、息が摩擦している音）。

4. [ʒ] measure decision vision

①口の動き・形・息の出し方は「ʃ」と同じです。

②「ʃ」の音を作ったように、舌の前方の表面が天井に接近します。

③「ʃ」は、「息」だけでしたが、今度はプラス「声」をだします。「ジ」と言う感覚で声をだしましょう。

5. [θ] thin month think thank

①舌を歯の間に軽くはさみます（前から、舌が少し見える程度出して、まず練習してみましょう）。

②舌と歯の間に通るように息を出します（間を通る時の息の摩擦音です）。

6. [ð] thus gather the that there
- ①舌を歯の間にかかるくはさみます。（前から、舌が少し見える程度出して、まず練習してみましょう）。
 - ②息を吐き出して、舌と歯の間に通しながら摩擦させて音を作ります。また同時に声を出します（「ズー」「ザー」というような感覚で）。
7. [f] fight foot for left safe
- ①上の歯を、下くちびるにあてます。（唇や歯に強く力をいれたり、かんだりしないように）
 - ②息を、上歯と下くちびるの間から均等に通します。
※上歯と下くちびるの間で作られる摩擦する音が「f」の音です。
「無声音」といわれる音で、息だけで音を作ります。
8. [v] vase vote very have give
- ①上の歯を、下くちびるにあてます（唇や歯に強く力をいれたり、かんだりしないように）。
 - ②「ブー」というつもりで声を出しながら、息も出して上歯と下くちびるの間から均等に通します。
9. [r] rich right cherry true write
- ①舌を持ち上げて、天井ぎりぎりのところまで接近します（舌はどこにもつけません）。
 - ②「うー」となるように声を出しますが、この時、「舌と天井の間の狭い空間」に向かって、声（息）をぶつけるようにします（ななめ上方向へ向かって声を出すように）。
10. [l] list love cool smile like listen
- ①上歯ぐきの付け根あたりに舌をつけます。
 - ②「うー」と声を出します。
息を、舌が接触している所へぶつけるようにしましょう。
11. [t] tennis trust tea take
- ①舌を上歯又は歯茎あたりにつけます。
 - ②舌を前方へ向かってはじいて（離し）、息も同時に強く出します。
12. [d] do dust dinner end
- ①舌を上歯又は歯ぐきあたりにつけます。
 - ②舌を前方へ向かってはじいて（離し）、息も同時に強く出して声をだします。
13. [p] pet paper people pose
- ①くちびるの上下をしっかりとくっつけて、閉じます。
 - ②息を瞬時に「ぱっ」とはき出しながら、閉じたくちびるを開放して、破裂音を出します。
14. [b] bat but baby bed book
- ①「p」の有声音ですので、基本的に「p」と口の動きは同じで、プラス声を出します。

- ②くちびるの上下をしっかりとくっつけて、閉じます。
- ③息を瞬時に「ぱっ」とはき出しながら、閉じたくちびるを開放して、声を出します。
15. [k] cook kick kind cake
- ①くちびるは力をいれずに軽く開いておきます (のどの付近はゆったりと)。
- ②のどを「クッ」と鳴らすように音をだします (舌の奥がのど近くに接近して、摩擦する音)。
16. [g] give good gift bag big
- ①「k」の有声音ですので、基本的に「k」と口の動きは同じで、プラス声を出します。
- ②くちびるは力をいれずに軽く開いておきます (のどの付近はゆったりと)。
- ③のどを「グッ」と鳴らすように声をだします
17. [ʃ] choose catch chair teach much
- ①舌を上歯又は歯ぐきあたりにつけます。
- ②舌を前方へ向かってはじいて、「チェ」又は「チュ」という感覚で声をだします。
息も同時に強く出します。
18. [ʒ] gem juice age job join
- ①舌を上歯又は歯茎あたりにつけます。
- ②舌を前方へ向かってはじいて、「ジェ」又は「ジュ」という感覚で声をだします。
息も同時に強く出します。
19. [m] many mood team more mind
- ①口を閉じます。
- ②「ンー」と鼻にかけて声をだします。
20. [n] never nine new name
- ①口を軽く開けます。
- ②舌を上歯ぐき付近につけて「ヌ」という感覚で鼻に抜くように声をだしましょう。
21. [ŋ] king sing tongue thing
- ①くちびるは力を入れずに軽く開いておきます (のどの付近はゆったりと)。
- ②のどの奥の方で、「ン」と鼻にかけるように出します (息は鼻のほうへ多く抜けています)。
- ③音を飲み込むような気持ちで、弱く「グ」と言うように終わります。
22. [h] ham hat he home hot high
- ①口をひらきます。
- ※口の開き・形は、次に続く母音に合わせてください。
- ②喉のあたりで、摩擦させるように息を出します。

23. [w] win we way wood week

- ①くちびるをやや突き出して、口をすぼめます
- ②くちびるをぱっと開くとともに、「ワ」という感覚で声をだします（口内で声を響かせるように）。

24. [j] yard yes yellow you

- ①ややすぼめるように、くちびるを寄せます（縦に軽くひらいておいてください）。
- ②舌は前方にいて、ほんの気持ち程度に持ち上げます。
口内の前方で、音を作るつもりで（音を響かせるように）声を出します。

言うまでもなく、このウェブサイトに掲載されている発音解説も、原理的には、無限に考えられる言葉による説明の一つの例に過ぎません。現実には、教室で授業をする教員が、自分が担当している学習者に最もふさわしい説明の仕方を工夫することになります。

VI. 最後に

日本の学習スタイルの基本姿勢を表す「読み書きそろばん」という慣用句が的確に示しているように、日本では伝統的に「読み書き」に重きを置いてきました。母語でさえ、「書く話す」は後回しなのです。

解剖学者で、脳の専門家でもある養老孟司氏の『特別講義 手入れという思想』「心とからだ」という章に、日本人の脳の特徴について触れた箇所があります。日本人の英語学習についての重要な示唆が含まれていると思われるので引用します。

日本人の場合、脳の側頭連合野が壊れますと、漢字が読めなくなります。このように、字が読めなくなる病気が二通りできるのが日本人の特徴で、一つは仮名が読めない症状、もう一つは漢字が読めない症状です。

（中略）

脳をコンピュータだとしたとき、文字図形があったときに、それにどういう音をはめるかが、日本語では一義的には決りません。送り仮名までを読まないで、これにどういう音を当てるかが決りませんから、非常に不安です。我々は脳を二カ所使って、それを処理しています。他の言語ではこの必要がありません。したがって日本語は「読み」のウェイトが非常に高い言語といえます。

よく、英語を長年やってもちっともしゃべれないと文句を言う人がいます。それは、日本語の常識で外国語を勉強しているからです。日本語の常識とは、読めればいいということです。（中略）これをそのまま外国語に当てはめて、つまり読みでもって外国語を勉強し

ますから、日本人で外国語を読める人は非常に多いが、しゃべれる人は割合に少ないということになるんですね。

日本語母語話者がなかなか英語を話せるようにならないのは、養老氏が指摘しているように、日本語という言語が、「読む」という行為を強く要請する言語であることと関係しているのかもしれない。

筆者は、『関西大学外国語学部紀要』第14号に、現在の平均的な日本の大学生の英語の読解力は、英語母語話者の読解レベルを基準にすると小学生相当である旨の「研究ノート」を書きました。受験で、極端に読むこと（しかも黙読）に相当なエネルギーを注いできたにもかかわらず、平均的な大学生の英語の読解力は、英語母語話者の小学生程度です。ましてや、「身体的に獲得するもの」である聴いたり話したりする力については、学習時間は圧倒的に不足しています。その意味でも、英語の発音の仕方を一から大学で教える必要を感じています。

受講生にテキストの英文を音読させたり、暗唱させようとしても、彼らはそれほど強いモチベーションを持って取り組みません。しかし英語の歌なら、何回でも繰り返し、暗記するまで声に出して自主的に練習します。しかも歌を歌うと、腹式呼吸の練習をすることができます。受講生に英語の発音を身につけさせるために、あるいは、人前で英語を話す心理的なハードルを下げるためにも、まずは教室で英語の歌を歌ってみてはいかがでしょうか。

注

- 1) この発音解説については、「インタースクール大阪校」の現役通訳者である佐々木氏に大変お世話になった。

参考文献

近藤知子「英語の発音教室 PLS」, <http://hatuon.sakura.ne.jp/>, 2017/2/28/ アクセス.

小学館ランダムハウス英和大辞典 第2版 編集委員会『ランダムハウス英和大辞典』第2版, 小学館, 1994年.

鳥飼玖美子『本物の英語力』講談社現代新書, 2016年.

成毛眞「成毛式英語習得法—本当に必要なら半年で話せます」, 『第三文明』, 第三文明社, pp.60-2, 2017年2月号.

ベリー, スコット「ネイティブ発音を手に入れる『5つの秘訣』」, 『CNN English Express』, 朝日出版社, pp.102-9, 2016年2月号.

_____「Scott Perry 発音アカデミー」, <https://spacademy.usefedora.com/>, 2017/2/28/ アクセス.

養老孟司『手入れという思想』新潮文庫, 2013年.

吉田研吾「英語の曲を歌うと腹式呼吸になる?」, <http://yd-voice.com/column/c066.html>, 2017/2/28/ アクセス.

李春喜「『SRA Reading Laboratory』を使った授業から見える大学生の英語読解力の低下について」, 『関

西大学外国語学部紀要』第 14 号, pp.67-76, 2016 年 3 月.

【添付資料】

【母音】

1. [a] ア
2. [i] イ
3. [u] ウ
4. [e] エ
5. [o] オ

【半母音】

1. [y] 「ヤ」「ユ」「ヨ」
2. [w] 「ワ」

【子音】

1. [k] カ行の音
2. [s] サ行の音
3. [c] 「チ」「ツ」
4. [t] タ行の音
5. [n] ナ行の音

6. [h] ハ行の音
7. [m] マ行の音
8. [r] ラ行の音
9. [g] ガ行の音
10. [z] ザ行の音
11. [d] ダ行の音
12. [b] バ行の音
13. [p] パ行の音

【撥音】

1. [N] 「ン」

【促音】

1. [Q] 「ッ」

【長音】

1. [H] 「ー」

